

①「保育室の環境改善とそれに伴う子どもたちの変化」

1【目的】

バンビ組開園3年目の年度として保育室の環境改善をし、子どもたちの遊び・活動がより充実するようにしたい。

*今までの問題点

- ・保育室にメリハリがなく、自由遊びの時に子どもたちが室内を周回したり走って過ごし衝突が起きる。
- ・絵本を自由に手に取る機会がなく、絵本への興味・集中力が身に付きづらい。
- ・遊びの持続性、幅の広がりがなく玩具に飽きやすい。

2【方法】

- ・保育室に絵本コーナーを設ける。
- ・新しい柵を購入する際におままごとコーナーを設置する。
- ・立つマットを設け、保育室内を仕切る。

3【結果】

- ・仕切りのない空間から、コーナーを設けることで室内が分断でき個々の遊びに集中する姿が見られるようになった。また、自由遊びの時間に横になってゴロゴロする子どもが減った。
- ・絵本コーナーができ、子ども自身で絵本を手に取れるようになった。日常的に絵本を手にすることで手あそび歌や特徴のあるフレーズを口にして保育者と楽しむ様子が多く見られた。
- ・ままごと遊びが充実した。蛇口で手を洗ったりコップに水を入れるなどの見立て遊びや、鍋を火にかけて料理しようという様子が見られた。
- ・室内を周回して走ることが無くなった。広い空間で走ることもあるが、数は減った。

4【考察】

仕切りスペースを設けることで、子どもたちが集中して遊び込めるようになった。午睡中、早めに目が覚めた子どもがそのスペースで保育者と遊ぶコーナーとなり保育者の事務作業が捗った。

今までは制作を柵の外で行ったり不便であったがコーナーを利用して活動の移行がスムーズになったが絵本を出しっぱなしにしたり全部出してしまう（特に0歳児）様子が見られ“絵本を大切に”という気持ちが薄い。絵本への強い興味と共に、大切に作る気持ちも伝えていかなければいけない。

29年度 春



29年度 夏



②「1歳児の進級に向けての準備活動」

1【目的】

1歳児は、2歳児進級時にスムーズに生活リズムが身に付くよう普段の保育から基本的な生活習慣が習得できるようにしたい。

*今までの問題点

- ・2歳児進級に伴い環境が一変するため、新しいクラスでの活動に馴染みづらい。(主に春)
- ・行事に参加する際に本園に馴染めず、行事自体を楽しむことができない子もいた。

2【方法】

- ・活動の中で衣服、靴、コート類の着脱を意識し保育者が寄り添ってやり方を伝えていく。
- ・ダンスの時間にきちんと横に並び、保育者との位置関係をはっきりさせる。
- ・積極的に本園へ行くよう努め、本園の器具で身体測定を行う。その際トイレも使用し、本園のトイレに慣れるようにする。
- ・「幼稚園座り」ができるよう冬から声がけを始める。
- ・水筒、スプーン・フォークセット、おしぼりケースを毎日持参し、給食時の準備に慣れる。
- ・おはようブックを印刷し、活動前の時間にシール貼りを行う。

3【結果】

- ・靴下、ズボンの脱ぎ履きは冬までに1歳児全員が出来るようになった。靴は季節により長靴など変わることもあるため継続できなかったが、ほとんど手伝いなしで出来る。
- ・ダンスの際、春の頃からお遊戯会を意識して整列できるようにしたため並ぶことに抵抗がなくお遊戯会では十分に体を動かせていた。
- ・本園に何度も足を運ぶことで、環境の変化に戸惑いやすい子も少しは克服できたように感じる。
- ・「かっこいい座り方はどうやるの？」と聞くと足を揃えて座るよう意識していた。
- ・水筒をおやつ時間に、スプーン・フォークセット、おしぼりケースを給食中に使用することで最初はなかなか苦戦していた子どもも、扱いに慣れて進級前には自分で準備・片付けが出来るようになった。
- ・毎朝のおはようブックを楽しみにし「今日はどこ貼るの？」と楽しみにしていた。

4【考察】

正職全員が2歳児クラスを担当したことから、進級時に“何がどこまで出来てほしいか”明確な目標を立てることが出来た。分園から進級してくる子どもは慣れない教室、慣れない保育者との出会いに毎年苦戦し泣いてばかりいる印象があったため「進級＝高いハードル」と考え基本的な生活習慣だけは身に付くよう寄り添った。0歳児も真似して衣服の着脱をしようとしたりダンス時に並んで踊ったりと良い刺激になった様子だった。

上記以外にも、衣服を巾着に入れる練習・お着替え・ズボンの裏返しを直す・友だちと手を繋いで散歩をする等、たくさんを練習することが出来た。全てを新たな環境で発揮できるとは限らないが、今までの進級児とは違う姿を見せてくれると期待している。

学年によって子どもの発達具合や理解力も違いがあるため30年度も同じように出来るとは限らないが子どもの姿に寄り添いながら行事、進級を見据えて基本的な生活習慣が出来るようにすることは未満児保育では重要なことだと感じた。「できない」と決めつけるのではなく、限られた職員、空間、活動の中でどれだけ寄り添えるかを考え、保育者間の意識を高めることはより良い保育への第一歩だと思う。

29年度は保育者同士、たくさん意見を交換しながらより良い保育を求める一年となった。



ダンス時の様子



自分で靴をはこうとする姿



“ようちえん座り”



おしぼりケースを開けている姿

おはようブックへのシール貼り

